



### SDGs 理解深める

#### 賢明中高×増位小

#### 中高5名が小学校で授業

十一月十一日(木)、高校生3人が小学生に授業をしに増位小学校に行ってきた。新聞班からも2名同行した。「こちらへどうぞ」と案内された教室では6年生たちが岩手県の小学生とオンライン交流をしていた。熱心に話を聞き、メモを取り、質問をする姿に驚いた。私が



想像していた小学6年生ではなかった。高校生3人(五百原さん、松田さん、安本さん)が増位小学校の6年生にSDGsと賢明での取り組みについての授業を実施。先程の6年生の姿を見てから高校生の顔に緊張の色が浮かんだように思えた。後輩として、先輩方が一生懸命に準備されていたのを見てきたため100%の力が発揮されるか心配だった。しかし授業が始まると、私の心配は杞憂に終わった。テレビで資料を映しながら授業をする高校生は輝いていた。大きな声ではっきりと、難しい言葉は噛み砕き、時々ジョークを入れる。自信に満ち溢れていた。近くで聞いていた私は圧倒された。さすが高校生、先輩。しかし、そんな高校生のパワーに負けなかったのが授業を受けていた6年生だった。

授業はSDGsについて説明することから始まった。増位小でのSDGsの取り組みを聞けば「グループに分かれて節水ポスターを貼ったり、飢餓問題に取り組むべく給食を残さないよ

うにしている」と答える6年生。何人もの生徒が手を挙げて発表してくれた。これには思わず高校生から「すごい!」の声が漏れた。彼らはすでにSDGsについて知っていたのだ。かなり詳しく。そして取り組んでいたのだ。次に今回増位小学校に協力していただいた「届けよう、服のチカラ」プロジェクトについて説明した。ただ説明するだけでなく、三択クイズ形式にしたり、考えを発表してもらったり、楽しい授業になるような工夫を多く感じた。6年生はすでに知っていることは頷きながら聞き、新しく知ったことはメモを熱心に取っていた。鉛筆の書く音が響いていた。時には鉛筆を書く手を止めてテレビの画面を身を乗り出して見ることもあった。



見事な漫才を披露した「マスイボーイ」のお二人

高校生が工夫して作った授業は多くの内容が詰め込まれていたが、聞いていて飽きることはなかった。動画やクイズなどを織り交ぜた授業は、あっという間に終わってしまった。身内の鼻息目なしに大成功だったと言えるだろう。実際に質問タイムでは、多くの6年生が発表してくれ、時間が押ししていった。嬉しい誤算である。また最後にお礼として「マスイボーイ」という名の漫才師二人がSDGsを絡めた漫才をしてくれた。「オカンが言っていたんやけどな」その特徴は完全にSDGsやわ!」おなじみの掛け合いに「オトンが言うにはUSJ」って言った」とオチまでバツチリ。将来に期待したい。

なぜ、増位小学校の6年生はあんなにSDGsについて詳しくだったのか、不思議に思った私は担任の先生に話を伺った。(2ページ目へ続く)

### 賢明人語

体育の時間の背筋トレーニングで「地球」を感じる。▼地面に寝そべり手足を広げると、自分が地球を包み込んでいるような感覚になる。▼勉強に追われ、課外活動に追われ、日々をすり抜けるように過ごす私たちに、「地球」を感じる瞬間はそう無い。こうして文字にすると奇妙に感じるかもしれないが、そんなふとした、自分と地球の繋がりを感ずる瞬間は、あなたの生活にあるだろうか。▼地球が宇宙の中心にあるという天動説が主流だった時代の中、太陽こそが宇宙の中心であるという一つの意見が波乱を呼んだ。「それでも地球は回っている。」は、これを唱えたガリレオが、裁判で有罪になった際につぶやいた言葉として有名である。▼それから200年以上が経過したまさに今、再び地球のあり方が変わろうとしている。▼地球温暖化・酸性雨・公害・砂漠化……。学校でもメディアでも、

急激に耳にする機会が増えたこれらの問題。もうその話はええねんという声さえ聞こえてきそう。新聞の一面・ニュースのトピック・学校の授業。様々な媒体で取り沙汰される環境問題に耳を塞ぎたくなくなったり、聞き流したりしてしまう人もいるのではないだろうか。▼気候変動は中でも注目されている。気温が上昇し雨や雪の降らない日が続くことで起きる水不足や、それとは対照的に毎年のように起こる「50年に一度の豪雨」による街への被害。▼「ねえ、今から晴れるよ。」なんて言えばどうにかなるほど、問題は甘くないようだ。▼環境問題から目を背けたり、どこか遠くに感じてしまう要因の一つに、地球というスケールの大きさがある。私たちが何気なく過ごす日常とこれらが近いところにあるように思えないのは、地球のためになんて考えなくても、今この時代をやり過ごすことが出来るように思えるからだ。だが実際はそうはいかない。変わりゆく環境の中で、私たちの行動の当たり前を、日々更新していかなければならない局面まで来ている。新たな当たり前を生み出す必要があるのだ。▼地球との触れ合いを、向かい方を、見つめ、考え、模索してみること。SDGsは、いつもそこが出発地点だ。そんな地球との繋がりに自信がなくなったら、地面に触れてみよう。空を見上げてみよう。地球に触れてみよう。そんなあなただけの繋がりを、もった瞬間から、SDGsは始まっている。地球と私達は、確かに触れ合っている、繋がっているのだから。

(藤田ひなの・赤松珠貴)

昨年の6年生、今の中学1年生からSDGs についての活動は広まったという。2030年を題材としたビデオをみた

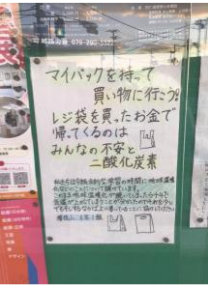
当時の6年生は危機感を持った。そこでSDGsについて調べ、全校生徒に広めた。そして今の6年生に繋がっている。週に2回の総合の時間を使い、何かできることはないかと活動している

そうだ。実際に食品ロスを減らすため、給食を残さなくなったり、節水・節電を意識しているなど行動に変化がおきたと担任の先生は話す。活動は校内だけに留まらない。学校で作ったポスターを貼ってもらうように交渉しに行っ

たのだという。放課後、自主的にということに驚く。交渉が成功した後からその話を初めて聞いたと先生は笑う。そのポスターはショッピングセンターや街の掲示板で見ることができる。

今回増位小学校に授業をしに行ってきたが、小学の年生の想像していた以上のSDGsへの関心の高さと意欲的な活動に驚いた。同時に力をももらった。私も負けてはいられない。今回の授業

に同行できたこと光栄に思う。



掲示されている手作りのポスター

(菅野柚希)

### 授業を実施した

#### 高校生にインタビュ

●SDGsに対して、どう思いますか？

●松田 私達が生きる時代に起こっている問題であり、人ごとではなく自分達で変えなければならぬものだと思っています。

●安本 将来の私達が住みやすいような環境を作ることの一步としてとても大切な取り組みだと思います。私達中高生でも小さい事から始める事で、世界の環境を変えることが出来ると思います。

●百原 一つ一つ目標は分かれていますけれど結局「地球を守り、全ての人が幸せに暮らせるように」という目標に繋がっていて、自分たちで未来を変えることが出来るがあるならやってみたいと思いました。

●なぜ小学生にユニクロの話をする？

●松田 お話を頂けたから。これから世代を担う仲間として皆さんが協力してくれたい活動について詳しく知って欲しかったから。

●安本 難民の子供たちが、私たちが集めた子供服によって笑顔と幸せを届けることが出来るということ、そして、私たち学生にも実際に世界の問題を少しずつですが解決する事が可能なんだということを知ってもらいたかったからです。

### 出張授業のきっかけは？

●百原 ユニクロ服のプロジェクトの協力をお願いしに行った時に、小野先生から「ちょっといい？」と話しかけられたのがきっかけでした。卒業生が

通う学校で、卒業生がどんな活動をしているのか、そして賢明ではどんな活動をしているのか、お話ししてほしいということでした。

●小学生に話している時、どう思いましたか？

●松田 すごくいきいきとした姿勢で話を聞いてくださり、とても話しやすかったです。また、私が小学生の頃は私も周りの人も全体的にあまりSDGsへの関心が無かったので、小学生の意識が高くなっていることがとても嬉しかったです。

●安本 小学生に向けて授業をするときに不安でいっぱいでしたが、みんな、積極的に質問などに答えてくれて、授業がしやすかったし、SDGsを絡めて漫才を小学生が披露してくれたりして、とても面白かったです。このよう

な授業をする事で、将来を担う小学生など小さい子供達にSDGsについて深く知ってもらえる良い機会になることがよく分かりました。私たちに何が出るのかを常に考え、小さい事からでも行動に移すことの大切さを伝えるこ

とができて本当に良かったなと思います。

●百原 いつもは誰かの前で話すとき心臓がバクバクするけど、近所の友達

がたくさんいてあまり緊張しませんでした。質問にも積極的に答えてくれたり、手を上げてくれたりと、積極的に参加してくれて嬉しかったです。

●これからの活動について

●百原 まず、私が所属している動物園班のクイズを完成させて、動物を通して、SDGsを考えてもらう活動を実現させたいです。そして、賢明のBe Leadersの活動に興味を持ってください

た出張授業のようなことをして、身近にできるSDGsと一緒に考えて広めていきたいです。



それは子どもたちの活動が大人を動かすと考えるからです賢明生の出身小学校など、Be Leadersひろめ隊のようなチームで活動できたらいなと思います。そして、私は住みよい社会、平和で豊かな未来をつくるために、まずは、家族や友達など身近な大切な人と一緒に幸せになるための行動をしていきたいと思っています。

(インタビュ 香山裕莉絵)

## 学院祭2021

### フェアトレード商品

### 販売2年ぶりに実施

緊急事態宣言下でスタートした2学期、感染者がなかなか減らず、宣言は継続。九月中旬の学院祭は残念ながら生徒公開のみで開催された。その中で2年ぶりとなるフェアトレード販売が高校一年生が出店し実施された。可愛い文具からドライフルーツまで、様々なフェアトレード商品を販売。売れ行きは校内のみであったが、順調であったようである。皆さんはなにか買ったでしょうか？ちなみに、高校生が選んだフェアトレード商品は完売したそう。ところで、これまでフェアトレードという言葉をごく当たり前に使っていたが、そもそもフェアトレードとはどういう意味なのか。フェアトレードとは、公平な社会をつくるために、経済的、社会的に弱い立場にある国の生産者と強



い立場にある国の消費者が対等な立場で行う貿易だ。そのため、フェアトレードのマーク（フェアトレード・ラベル）は、未来への可能性を表す青空の青色と、成長や広がりを表す緑色からなっている。他にも誰が見ても一目で分かるなど、いろんな由来がある。さて、フェアトレードについての知識が付いたところで本題に入る。学院祭でフェアトレード商品の販売に関わった坪田先生からお話を聞かせていただいた。

まず、どのようなフェアトレード商品が売れたのか。賢明で販売した商品は、バン格拉デシヨロやネパール<sup>2</sup>からやってきた物が多く、ドライフルーツやコーヒー、石けん、現地の植物から作ったカバン、現地の伝統的な織物と、さまざまな種類の商品が売れた。

## フェアトレードの商品が

### 賢明に来るまでの経路

フェアトレード商品を日本に持ってきてくれるNPO 法人という団体がいくつもあり、団体の方は現地を訪れ、良い商品や良い商品を作る人を見つける。交渉して値段を決め、商品を作ってもらい仕入れて日本でネット販売をする。そこで、賢明は商品を購入、賢明で販売した。

仕入れた団体は「ビーブルツリー」（一般のスーパーマーケットでもチョコレートや蜂蜜がフェアトレード商品として販売されている）と「クラフトリンク」。



## 生産者と

### フェアトレード商品

なぜフェアトレード商品が割高なのか。フェアトレード商品(例猫のシュートバッグ(麻の鞆))を作る生産者には商品代金の約80%に満たない量のお金しか手元に届いていない。

それは、商品の材料費や現地から運んでくる為の輸送費などの販売までの経費が含まれるからだ。私たちがすると、少なく感じるが現地のファストファッションを作る人たちに渡る利益は約2倍。フェアトレードは、フェアトレード商品の生産者が暮らして生産を続けていけるのに必要な利益を手元に残して行われる取引なのである。フェアトレード商品が割高なのはこの利益がしっかりと含まれているためである。フェアトレード商品の生産者が暮らして生産を続けていけるのに必要な利益を手元に残して行われる取引なのである。フェアトレード商品が割高なのはこの利益がしっかりと含まれているためである。



な利益を手元に残して行われる取引なのである。フェアトレード商品が割高なのはこの利益がしっかりと含まれているためである。

## フェアトレードの役割

フェアトレードによって、生産者の住む国へ影響を与えることができるのかという質問に対して、生産者が80%分だけでも収入を得られたとしても、その国が一気に豊かになるような劇的な変化はないが、フェアトレードがなければ生産者の生活がもっと苦しいものになり、子供が学校に行けなかったかも知れない。しかし、フェアトレードで少しでも利益を得ることによって学校に行くことが可能となり、ずっと同じ仕事を続けるのではなく、もっと収入の良い仕事にステップアップできる機会があるかも知れないとおっしゃった。フェアトレードはいい商品を作る生産者がいい商品を作っているだけの収入を得られていない状況を少しでも変えようとする取引であるため、生産者が正当な収入を得られる値段で買い取っている。そうすると、元は貧しい暮らしをしていた農家の子供たちが学校に行けるようになり、仕事に対する選択肢が増えていく。

## 先生方の感想

フェアトレードに少しでも興味を持ち、スーパーで同じチョコレートを買うのも、フェアトレード商品を選ぶようになって、フェアトレード商品が後押しになって、フェアトレード商品が扱ってお店にもっと沢山の商品が並ぶかもしれません。それで、フェアトレードの貿易が増えて現地の人がフェアトレード

## SDGs 世界の取り組みを探る

<SDGs と世界の取り組み> 1位フィンランド 2位スウェーデン  
3位デンマーク 4位ドイツ 5位ベルギー 6位オーストリア  
7位ノルウェー 8位フランス 9位スロベニア 10位エストニア

これは2021年6月14日に『Sustainable Development Report 2021』で公開された、最新のSDGsの達成・進捗状況を報告するランキングの上位10ヶ国です。上位の北欧3ヶ国は、報告されている2016年から今日まで上位3位を記録し続けています。ランキングの首位国はSDGsに対してどのような取り組みをしているのでしょうか？そこで、今回は上位3ヶ国の取り組みを調べました。

の貿易に参加するチャンスが増えると思います。例えば「小さな蝶々の羽ばたきが地球の裏で大きな嵐を巻き起こす。」(バタフライ効果)があるかも知れません。賢明でフェアトレードショップは商品を売る側も買う側も楽しそう、誰も損することのないプロジェクトなのでよかったと思います。



売上合計 259,660 円  
(取材・記事編集 北原萌衣・神足佳音・上田彩葉・久保由乃)

「UN17Village」完成予想図



**3位 デンマーク** 「UN17 Village」という取り組みが行われています。これは、SDGsの17の目標をすべて達成できるようにビレッジを建設するプロジェクトです。2023年に完成する予定のビレッジでは、リサイクルされた建材などを使用した5棟の建物が建てられ、800人以上が居住できる街になるそうです。また、雨水を貯水するシステムが導入され150万リットルの雨水が利用できるほか、多様な生物のすみかとなるよう、屋上庭園もつくられる予定となっています

**2位 スウェーデン** 企業におけるSDGsへの取り組みがかなり活発です。スウェーデン発祥の企業で世界的に有名な家具量販店のIKEAも、SDGsの実現に力を入れているそうです。IKEAでは、製品の60%以上に再生可能な素材が利用されているほか、エネルギー利用効率の高い家電製品を展開するなど、環境を意識した製品づくりをしています。スウェーデンでは他にも、食材は認定を受けたものを使用したり、女性や移民など多様性に富んだ職場環境を実現させたりと、自然環境、労働環境、ジェンダーなどの様々な側面からSDGsを推進しています。上庭園もつくられる予定となっています。



**1位 フィンランド** 一位のフィンランドの特徴として、行政が中心となって持続可能な社会構築への取り組みを進め、社会的にもSDGsの考え方がかなり浸透してきているという事が挙げられます。首都ヘルシンキの観光情報を紹介するウェブサイトには、「サステナビリティ」に焦点を当てた情報を発信するページが設けられていて、そこではどの施設がサステナビリティの基準を満たしているのを知ったり、ヘルシンキでのサステナブルな1日の過ごし方について情報を得たりすることができるそうです。行政が中心となって積極的に持続可能性に関する情報発信を続けることで、人々にとってもSDGsの考え方が身近なものとなってきています。



ランキングの上位国であるフィンランド・スウェーデン・デンマークでは、国や行政を中心として様々な取り組みが行われており、企業や個人にもその姿勢が浸透しているということが分かりました。SDGsの全ての項目を達成するには長い時間を要するとは思いますが、一人一人が取り組んでいくことで確実に達成に近づいていくのではないかと考えます。150万リットルもの雨水が利用できるほか、多様な生物のすみかとなるよう、屋上庭園もつくられる予定となっています。(久保音祐)

## 「第3回 松浦杯2021」 優勝はH2 竹川さん 9月25日(土) やはり強し 優勝3年連続高校2年生



## 参加体験記 本紙小西華蓮記者

今年度の9月25日に第3回賢明弁論大会「松浦杯」が開催されました。「松浦杯」とは現在地球で起こっている課題について興味がある人は勿論、自分が感じたことや行動したことを主張し、弁論することのできる大会です。弁士は中学3年生から高校2年生の計9人。そして国連が定めるSDGs(持続可能な開発目標)を踏まえ、「私達と地球の新しい未来へ、提言」というテーマで幅広い弁論を行いました。私は今年中学3年生でBe Leadersに参加し、SDGsをはじめ地球環境について知ったことを弁論してみたいという気持ちからこの大会に初めて応募しました。今まで授業内での発表を体験しても、このような「大会」は簡単に参加できるものではありません。そのためかなり緊張しますが、

得られるものはとても多く、本当に良い経験をさせて頂いたと思います。

私が一番に圧倒されたのは高校生の弁論です。私達中学生は全員初体験でしたが、皆今ある知識を最大限に活かして、一生懸命弁論に取り組んでいる様子がよく分かりました。その一方で、高校生は私達の身近な事から地球規模の課題に関連付けて、わかりやすく説得力のある力強い弁論でした。他にも論旨だけでなく、正々堂々とした態度や声量や質疑応答時の質問にすぐ答える頭の回転の速さ、中には原稿をほとんど暗記していた先輩もおり、「弁論」とはこういうことなのだと思ってしまうと感じました。

私が学んだことは演説力だけでなく、弁論を聞いて初めて知った内容や、質疑応答の方法、何を意識しながら練習すれば良いのかなど他の出場者の弁論を見て自分もこのような弁論が出来る人になりたいと新たな憧れを抱きました。

何かに挑戦してみたいけどなかなか足を踏み出せない人、興味はあるけど迷っている人、皆さんにとってこれは貴重なチャンスです。必ず今後に生きてくる経験になると思います。私のように発表が苦手でも、弁論を観客として見ることも可能です。ただ少しでも、松浦杯を通して今の現状や地球の環境問題について知り、考え

てもらえたら幸いです。皆さんも是非、来年度の「松浦杯」に行ってみてください。

### 第3回 「松浦杯」2021 最終結果

- 優勝 H2A 竹川 愛理さん
- 準優勝 H1A 下山 真実さん
- 3位 H1A 小西 葵葉さん
- 4位 M3A 黒田 千晴さん
- 5位 H1A 松田 彩花さん
- 参加者 M3A 井原諒乃さん M3A 岡野晴菜さん
- M3A 小西華蓮さん M3C 松本かなさん



今大会に特別審査員として参加して下さった姫路環境開発の



梅崎晃平社長。姫路環境開発さんには「海のごみ調査隊」でもお世話になっています。「海のごみ調査隊」参加者募集のお知らせ  
12月22日(火)13時～ 参加希望・詳細は平尾先生まで